

## 第2 【事業の状況】

### 1 【業績等の概要】

#### (1) 業績

当中間連結会計期間における情報サービス産業界の動向は、経済産業省の統計速報によると9月度の売上高は前年同月比0.2%減となり、7月度に続く減少となりました。これは、「システム等管理運営受託」が金融業、製造業向け等の増加により同24.9%増加したものの、主力の「受注ソフトウェア」が金融業・通信業向け等の減少により同3.6%、「ソフトウェアプロダクト」も同5.5%とそれぞれ減少したことが主因で、これまで順調に推移してきたIT関連投資にも、企業を取り巻く厳しい不況の影響が出てまいりました。現下の急激な株安の影響等で、一部の企業による案件の内製化、延期、見送りなどの懸念材料も出てきております。今後の景況が持ち直す兆しは依然不透明であり、ますます高品質化とコスト競争力を強化しなければならない厳しい状況となっております。

このような厳しい環境のなかで、当社では「高度なITサービスの提供によりCS(Customer Satisfaction)向上を図るとともに、コアコンピタンスの確立により高成長実現を目指し企業価値向上を図る」を引続き経営基本戦略として掲げ、データセンター事業を含む情報処理サービスや、基幹システム構築をはじめとするソフトウェア開発を中核ビジネスとして、グループ経営を推進してまいりました。

特に、昨年8月にアサヒビール(株)の子会社、アサヒビジネスソリューションズ(株)に資本参加して同社の経営改革および協業体制整備を推進し、アサヒビールグループからの受注は順調に増加し、本年8月に食品システム事業部を新設するなど、今後さらに同グループからの情報システム受託開発やアウトソーシングビジネスを拡大する体制を整備いたしました。また、当社は9月2日をもって東京証券取引所一部指定企業となりました。

この結果、当中間連結会計期間における当社グループの売上高は24,370百万円(前年同期比4.5%増)と増収となりました。経常利益につきましては、金融関連分野における不採算プロジェクトの処理、基幹システム案件の検収の下期ずれ込み、および退職給付会計関連数理差異の負担増等のマイナス要因があったものの、大手町インターネットデータセンター(iDC)の収益改善や、科学・工学系情報サービス分野の効率経営を目指した事業再編による収益面での改善等が寄与し、1,293百万円(前年同期比0.1%増)となりました。中間純利益は674百万円(前年同期比3.2%減)となっております。

また、株式市況の低迷により資本直入処理しているその他有価証券評価差額金が減少したこともあり、総資産は23,789百万円(前年同期比4.6%減)、株主資本は12,077百万円(前年同期比1.5%増)となりました。

当社グループの事業分野ごとの概況は次のとおりであります。

#### 情報処理サービス

当事業分野につきましては、横浜・神戸・東京大手町の3拠点のデータセンターを一体的に運用し、流通・リーテイル・金融分野を含め、顧客のe-ビジネスから基幹系システムの運用まで、アウトソーシング事業を積極的に展開しております。顧客システムのダウンサイジング化などによ

り、大型汎用機による基幹系運用業務の減少が見られるものの、オープン系ならびにインターネット系システムの運用業務の増加により、アウトソーシング全体では順調に増加いたしました。都心型の「大手町インターネットデータセンター(iDC)」は、厳しい競争下において、長年の運用・監視ノウハウに基づく高度で信頼性の高いサービスを提供しており、顧客の引合は活発で、当中間連結会計期間は計画を超える着実な伸びとなりました。

また、ネットワーク関連ビジネスでは、ISP/ASPサービスの当社ブランドである『BXN』(Business eXchange Network)やLAN/WANのインテグレーション、セキュリティ分野の取組みを推進し、順調に推移しております。

グループ企業との連携面では、当社3拠点のデータセンターおよび銀行事務センター、衛星通信放送センターにおけるシステム運用・監視サービスを主業務としている(株)CRCシステムズが、データセンター関連における継続的な需要に加え、東経110度衛星デジタル放送監視サービスも新たに加わり、売上は拡大し好調に推移しております。今後もシステム運用・監視サービスをコアに、衛星通信放送サイト運用業務等の拡大を図ってまいります。

当中間連結会計期間における情報処理サービスの売上高は、12,741百万円(前年同期比13.6%増)となりました。

#### ソフトウェア開発

当事業分野につきましては、流通・リーテイル・金融の各分野およびネットワーク関連のシステム構築等を注力分野として事業を展開しております。当中間連結会計期間においては、金融関連分野における受注の低迷と不採算プロジェクトの発生により不振となりましたが、組織再編や業務の絞込みなどにより収益体質への転換を図り、特に不採算プロジェクトについては、問題点の洗い出しと人材の投入により、処理を完了させました。

総合商社、コンビニエンスストアおよび大手食品卸会社等の顧客企業における基幹システムや各種アプリケーション開発は、一部で当中間連結会計期間に予定していた基幹システム案件の検収が下期にずれ込むなどマイナス要因もありましたが、アサヒビールグループからの受託業務やJAVA等インターネット関連技術を駆使したWebベースのシステム構築等のソフトウェア開発案件が拡大し、順調に推移いたしました。

当中間連結会計期間におけるソフトウェア開発の売上高は、ほぼ前年同期並みの6,239百万円(前年同期比2.0%減)となりました。

#### システム販売

当事業分野につきましては、システムインテグレーターとしての機器販売やネットソリューション関連業務等に関わるシステム販売がありましたが、売上は漸減しております。

当中間連結会計期間におけるシステム販売の売上高は、1,878百万円(前年同期比13.2%減)となりました。

#### 科学・工学系情報サービス

当事業分野につきましては、科学・工学系のソフトウェア開発・解析・販売を行っております。不採算分野の撤退も含めた事業再編による効率経営を推進しておりますが、主要顧客である土木・建設業や製造業における景況はさらに悪化しており、当中間連結会計期間の売上は伸び悩みました。一方、医薬品の臨床開発に関わるCRO業務分野や衝突・衝撃などの防災シミュレーション

分野では、売上も着実に拡大し順調に推移いたしました。

当中間連結会計期間における科学・工学系情報サービスの売上高は2,875百万円(前年同期比10.8%減)となりました。

## (2) キャッシュ・フロー

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、仕入債務の増加及び投資有価証券の売却等による収入があったものの、借入金の返済及び設備投資等の資金流出により、前連結会計年度末に比べ758百万円減少し、当中間連結会計期間末には2,821百万円となりました。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における営業活動による資金は、185百万円の減少となり、前年同期に比べて183百万円の改善となりました。これは、仕入債務が前年同期に比べて164百万円増加したこと等によるものであります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における投資活動による資金は、239百万円の減少となり、前年同期に比べて832百万円の増加となりました。これは、引続きデータセンター事業への設備投資等で330百万円支出した一方で、投資有価証券の売却収入90百万円があったこと等によるものであります。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における財務活動による資金は、320百万円の減少となり、前年同期に比べて1,278百万円減少となりました。これは、前年同期には1,200百万円の短期借入金調達による収入がありましたが、当中間連結会計期間には資金調達の必要が無かったこと等によるものであります。

## 2 【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

区分	金額(百万円)	前年同期比(%)
情報処理サービス	12,724	13.0
ソフトウェア開発	6,453	3.6
システム販売	1,897	10.6
科学・工学系情報サービス	2,643	13.7
その他	660	86.9
合計	24,379	3.8

(注) 金額は販売価額によっており、消費税等は含まれておりません。

### (2) 受注状況

区分	受注高(百万円)	前年同期比(%)	受注残高(百万円)	前年同期比(%)
情報処理サービス	21,791	28.9	9,991	71.0
ソフトウェア開発	8,598	47.7	4,768	65.2
システム販売	2,065	34.7	595	50.1
科学・工学系情報サービス	3,005	7.0	2,156	25.0
その他	943	353.8	332	536.3
合計	36,404	24.1	17,844	52.5

(注) 金額は販売価額によっており、消費税等は含まれておりません。

### (3) 販売実績

区分	金額(百万円)	前年同期比(%)
情報処理サービス	12,741	13.6
ソフトウェア開発	6,239	2.0
システム販売	1,878	13.2
科学・工学系情報サービス	2,875	10.8
その他	635	82.6
合計	24,370	4.5

(注) 1 主な相手先別の販売実績及び総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前中間連結会計期間		当中間連結会計期間	
	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
伊藤忠商事株式会社	4,010	17.2	3,058	12.6

2 上記金額には消費税等は含まれておりません。

### 3 【対処すべき課題】

情報サービス業界においては、景況悪化の影響が企業の情報化投資にも波及してきております。特に金融関連分野は大幅な落ち込みを見せておりますが、当社が特に強みを発揮する流通関連分野での情報化投資は依然底堅く、アウトソーシングニーズは拡大してきております。

従い、厳しい環境ではありますが、当社グループは株主重視のグループ経営を推進し、期初計画の達成を目指してまいります。また、21世紀のエクセレントカンパニーを目指すため「ビジョン21策定委員会」を設置し、事業戦略の策定やコスト競争力強化を図るための具体的アクションプランの策定を進めております。主要な対処すべき課題は下記のとおりであります。

- (1)アサヒビールグループとのアライアンス強化と経営資源集中による受注拡大
- (2)3拠点データセンターの顧客拡大
- (3)ERP分野の拡充
- (4)品質・生産性向上と人材確保・育成
- (5)人事制度改革とコスト削減
- (6)リスクマネジメント体制の強化・拡充

### 4 【経営上の重要な契約等】

当中間連結会計期間において、経営上の重要な契約等はありません。

### 5 【研究開発活動】

当社グループの研究開発につきましては、先行投資として積極的に当社が中心となって取り組んでおり、その内容は以下のとおりであります。

当社における研究開発は、各事業部において、将来の市場と内外の技術進歩を見据えて各々の専門分野に係る応用技術開発を推進する一方、Webサイト構築やセキュリティなど、インターネットを中心としたIT関連の共通基盤技術の習得・実用化に努め、新規事業育成、新製品開発、品質管理・生産性向上等の促進を基本方針としております。当社が取り組んでいる主な研究開発活動は受託開発も含めて以下のとおりであります。なお、当社グループの研究開発費の総額は、外部からの委託研究を除いて当中間連結会計期間で約83百万円であります。

#### (1) 応用技術

企業向けの音声IP電話サービスに関するネットワーク技術の研究を大手通信キャリアと共同で行っております。また、ISP/ASPの当社ブランドである『BXN』のサービス地域拡大を図るためのADSL接続に関する研究。顧客のeビジネス展開のためのWebサイト構築とeコマース研究。オブジェクト指向の次世代型構造・流体解析システムの開発。ナウキャスト（発災前）地震情報にもとづく地震防災研究。メタンハイドレードの環境影響評価システム開発。長期気象予測システムや局地気象予測システムの精度向上と、風力発電量や波浪のシミュレーション技術などを活用した新規分野の研究など、新規技術とそれに対応した技術者養成、新製品開発、新規事業育成を引き続き進めております。

## (2) 共通基盤技術

インターネット関連分野では、暗号化技術・認証技術などを活用し、セキュリティを確保したうえで共同利用環境を提供する技術を実用化し、さらにASP事業のサービスメニュー拡大により、顧客の多様化・高度化したニーズに対応しております。次世代ネットワークシステムとしてのWASP(Wireless Application Service Provider)関連分野では、携帯電話やモバイルPC上でのJava対応によるアプリケーション活用を研究しております。また、経営情報分析ツールOLAP(Online Analytical Processing)を使った汎用的ソリューションモデルの研究等も行っております。さらに、経済産業省が新たに推進している「ITコーディネータ制度」に基づき、経営戦略実現にITを活用する中核的人材の育成を積極的に進めてまいります。

## (3) ソフトウェア生産技術

ソフトウェア開発における品質および生産性の向上を図るため、品質・生産性向上推進センターを設置し、全社ナレッジ資産の発掘とナレッジ利活用推進の取組みを強化するとともに、オブジェクト指向に関わるシステム基盤の整備・維持・改善に注力しております。また、品質マネジメントシステムについては、すでに当社業務の全般においてISO9001:2000の認証を取得(部署別には約半数)して、業務の標準化、効率化を推進し、顧客の皆様へのサービス拡充を図っております。

## (4) 特許の取得

当社で開発したソフトウェアおよび応用技術については、既存特許権に抵触しないかどうかのチェックを行い、新規のものについては特許申請を励行して技術の権利化に努めております。